

平成25年度 学校評価表(安来高等学校)

◆自己評価・・・達成指数100以上⇒評価A(目標達成)、達成指数80以上100未満⇒評価B(ほぼ達成)、達成指数80未満⇒評価C(不十分)

◆「評価指標の評価とは」・・・アンケートの回答結果(4: と思う、3: どちらかというと思う、2: あまりそうは思わない、1: まったく思わない、0: わからない)

校訓	評価計画				自己評価				学校関係者評価		次年度への改善策 (3月3日現在)		
	教育目標	重点目標	目標達成のための方策	担当	評価指標	目標値	評価値	達成指数	評価	結果と課題		評価	委員からの意見等
I きびしく自らを律し	1 基本的な生活習慣の確立と、自主・自律の人格育成	(1) 社会に通用する心の育成「きびしい指導ときびしい学び」	ア) 朝の立ち番による挨拶・遅刻防止指導、頭髪・服装検査、登下校交通マナー指導等を通して、規則正しい生活習慣及び校則を遵守する精神を育成する	生徒指導	「服装・頭髪・挨拶指導」に関する評価(生徒・保護者・教員)	3.5	3.18	90.8	B	挨拶は年度当初よりは良くなってきているが、年々下降気味である。 ・服装・頭髪指導は概ね達成されているが、一部の生徒のスカート・ピアスの穴・靴下等の乱れを指摘する声が生徒からも挙がっている。	B	・年度当初よりは挨拶が良くなっている。 ・先ず、保護者や教職員からの挨拶が大切と考え、成果がすぐに出なくても継続により生徒の啓蒙につながると思っております。	・挨拶運動を生徒会からも仕掛けていく。 ・服装検査時に生徒指導部員も立ち会う。
		(2) 生徒を「自律」へと導く保健活動の推進	イ) SC事業、心と性の健康相談事業の活用と校内の生徒支援組織の運営を推進する	保健相談	「保健室が発する健康情報」に関する評価(生徒)	3.5	2.99	85.4	B	年次計画による学年ごとの保健講話の実施、時期を得た保健だよりの発行で健康教育・啓蒙の継続・強化を図っている。月2回程度のS.C派遣は有効機能しており、なおかつ時間不足の現状がある。	B	SC派遣事業の重要性を改めて認識できた。必要とされる保護者に情報が届くようにお願いしたい。	学校保健計画に基づいて、今後も多様な形で健康情報を継続的に提供していく。S.Cは来年度も継続配置を要望すると共に、さらなる派遣増を希望する。
II 目標と信念を高く持ち	2 自ら学ぶ態度の育成と、学習指導の充実・強化	(3) 生徒の学習習慣の確立と基礎学力の定着	ウ) 学習記録帳の活用を通して家庭学習の充実を図るとともに、個別学習環境を整え、基礎学力を定着させる	教務	1週間の学習時間が1200分を超える生徒割合(2学期の学習時間調査)	70%	64.40%	92.0	B	1年49.3%、2年68.0%、3年75.3% 1年生の入学段階での家庭学習の仕方などの指導の徹底が必要。担任、教科担当との面談などの時間確保が課題である。	B	・生徒に学ぶ必要性や楽しさを味あわせる指導をお願いしたい。 ・部活動時間の短縮が必要かもしれない。指導や練習方法の工夫も必要となります。	1年生に対し入学段階で、家庭学習の仕方などの指導を授業者、担任面談、学習記録帳、集会を通して行う。
		3 ハイレベルの文武両道。目標高く邁進する生徒と教師	(4) 生徒の諸活動の活性化「高い目標と一致団結」	エ) 各種行事を成功させるため、生徒会執行部や各種委員会の主体的な活動を支援する	生徒指導	「生徒の主体的な活動支援」に関する評価(生徒・保護者・教員)	3.6	3.40	94.4	B	学園祭では生徒・保護者・教職員の三者ともに評価は高いが、もっと楽しませて、という生徒の声も一部にある。	B	活動や発表する側(生徒)の楽しむこと、絆を深めることはもとより、見る側(保護者、地域の方々)の視点にも配慮が必要。
オ) 部活動顧問と連携し、生徒が学習との両立を目指すことができるよう支援する	カ) 部活動加入率を向上させ、地域と連携した活動と上位大会出場を推進する		生徒指導	「文武両道を目指した学習指導や部活動指導」に関する評価(生徒・保護者・教員)	3.5	3.10	88.5	B	部活動が厳し過ぎる・緩過ぎる、という両極端の声が保護者、教職員から挙がっているが、双方の意見に共通する課題は、部顧問と保護者との情報共有に不十分な点があったことである。	B	・部活動時間の短縮が必要かもわかりません。指導の工夫や生徒が主体的に活動できるようにすることが重要と思う。 ・指導者、生徒、保護者、相互の連携が必要である。 ・保護者に練習計画を示し、連携を深めていくことが重要である。	顧問による保護者への情報提供をきめ細かく行う。あわせて部員の、報告・連絡・相談力の向上と自立に努めていく。	
キ) キャリア教育・総学スタッフ、学年会と連携し、全員で取り組む体制を確立する	ク) 生徒の進路希望の把握に努め、自己実現の参考となる進路情報を提供する。		教務	「進路選択や文理選択に役立つキャリア教育や総学の授業」に関する評価(生徒)	3.5	3.04	86.8	B	アンケートの質問に対するキャリア教育の概念が生徒に浸透してはなかった。概念と趣旨について生徒に浸透させる必要がある。	B	・キャリア教育は、今後の進路を考えるうえで、より重要となる。 ・視野を広げるためにも都市部の大学や企業を訪問する機会もあっていいと思う。	各学年総学の導入段階で本校のキャリア教育の方針について確認する。キャリア教育(学習)に関する生徒アンケートの文面にも工夫を加える。	
III 美しく豊かに生きる	4 学校全体が動くキャリア教育と、その成果としての進路希望実現	(6) 人権意識を基盤とした個に応じた進路保障の推進	ク) 生徒の進路希望の把握に努め、自己実現の参考となる進路情報を提供する。	進路指導	「進路に関する情報提供」に関する評価(生徒・保護者・教員)	3.5	3.17	90.5	B	「進路指導室便り」発行により、生徒・保護者への進路意識の喚起を促した。時期をとらえた情報提供を計画的に進める必要がある。	B	親子で話し合いができるよう、保護者に向けた情報提供を積極的に進めてほしい。	「進路指導室便り」等の進路情報の継続的・計画的配布
		(7) 保護者、地域、大学等との連携によるキャリア教育の充実	ケ) 地元の上級学校や企業との繋がりを強め、講演会、職場体験、学校訪問を実施する	進路指導	「地元の上級学校や企業との連携」に関する評価(教員)	3.5	3.20	91.4	B	各方面と連携して、職業人講話、学校・職場訪問を実施した。生徒の進路意識の高揚につなげることができた。次年度も継続したい。	B	地元にも多くの企業がある。地域の職業人の協力をお願いするとよい。	職業人講話、上級学校訪問実施内容の改善
IV 美しく豊かに生きる	5 生徒の学力向上と教員の指導力・授業力向上	(8) 教師の授業力向上	コ) 公開授業(互見授業)や生徒による授業アンケートを実施し、自己研鑽する機会を設ける	教務	「2学期の授業アンケート」に関する評価(生徒)	3.5	3.27	93.4	B	1学期3.24から2学期3.27と0.03ポイント上昇。「わかりやすく理解できる授業」に対する評価は、12学期とも3.20であるのでこの項目の強化が必要である。公開授業の在り方の検討も必要。	B	授業自見の取組は、大変有意義なものと思う。より良い指導を目指す先生と学ぶ意欲を持つ生徒、環境の充実が揃ってこそ「より高く」の校訓の理念実現への道ではと思う。	授業公開期間を拡大し、授業反省、スモールアプシートの提出を徹底、授業自見の結果なども反省に盛り込み意欲を高める。
		(9) 各教科、分掌との連携による基本的な学習習慣の定着	サ) 進路検討会や模擬試験結果を、学習状況の改善につながる形で全教員に提示する	進路指導	「個々に応じた適切な進路指導」に関する評価(生徒・保護者・教員)	3.5	3.20	91.4	B	教員への情報提供が、生徒の学習習慣の定着に必ずしもつながっていない現状がある。学習時間確保の方策が今後の課題である。	B	先生方の信念ある指導の継続が、必ずや生徒の心に届くと思います。	教科主任会での進路検討会・模試結果の資料提示・対策依頼
V 美しく豊かに生きる	6 確たる人権尊重の意識を持ち、自らを大切にし他者を思いやる心の育成	(10) 自他を尊重する生徒の育成「美しい人間性と人間関係の形成」	シ) 生徒一人一人が自己肯定感を持って学校生活を送れるように、全教職員が共通理解を持ち、適切な指導・助言を行う	人・同教推	「人権を尊重する意識を育てる指導」に関する評価(生徒)	3.5	3.19	91.1	B	全分掌で分担して指導を行う現行の体制下で、共通理解を深める確認の場が十分に確保できていなかったため、目指す方向性が内からも外からも見え辛くなった。	B	人権問題は多様であり繊細な問題でもあり、生徒への指導をしっかりと進めてほしい。	校内推進委員会を定期開催することで機能させ、現行の業務分担の周知・徹底を図る。
		(11) 生徒、教職員の人権意識を高め、地域との連携を深める	ス) 人権・同和教育に関するLHRと校内研修を推進し、個々が自分の在り方を振り返る機会を設ける	人・同教推	「LHRや研修等で学んだことが活用」に関する評価(生徒)	3.5	3.20	91.4	B	学校生活の中で人権について強く意識している生徒が相当数いる。地域やこれまでの取り組みの成果であり、発展的に今後につなげる手立てを講じなければならない。	B	自らの尊厳、他者への受容、認め合う心を育むことは、高校生世代の重き学びと考える。 自らを大切に、他者を大切に、地域、国、人を思い愛する人格形成の指導に期待する。	生徒会の人権委員会を活用し、生徒が通年で取り組める活動を考える。 1か月前には指導案を提示し、学年会との協議の時間を確保する。
VI 美しく豊かに生きる	7 開かれた学校づくりと家庭及び地域連携。地域とともに成長する学校	(12) 学校行事の円滑な運営	ソ) 運営委員会・職員会議等を通して綿密な計画を立て、学校行事を円滑に運営する	総務	「会議や行事の円滑な実施のための各分掌等との連携」に関する評価(教員)	3.8	3.40	89.4	B	評価値が昨年度より0.3ポイント下がった。全体的には円滑な行事運営ができたと考え、学年会との連携が不足していた分掌もあったようである。	B	今後、一層連携した行事予定表の作成に努めるとともに諸会議の運営に努めてほしい。	更なる連携強化のため、総務部として連絡・調整を積極的に図る。
		(13) 開かれた学校づくりと家庭及び地域連携。地域とともに成長する学校	タ) HPや学校案内を充実させ、最新情報を中心に幅広い広報活動を行うとともに、中学校や地域との連携を深める活動を行う	総務	「本校からの文書連絡」に関する評価(保護者)	3.8	3.48	91.5	B	昨年度より0.1ポイント上がった。保護者宛文書はピンク用紙で配布し好評であるが、保護者に渡さない生徒がいることも事実である。	B	保護者宛は色紙にしたこと、そして、HPにも掲載されるなどの改善が見られよかった。生徒への指導を継続願いたい。	魅力あるホームページとなるよう、更なる内容の充実を図り、最新情報の提供・更新を行う。 保護者宛文書は、次年度もピンク用紙での配布を継続し、更に生徒への指示徹底を強化する。なお、今年度途中からホームページ掲載も開始している。
VII 美しく豊かに生きる	8 豊かな情操の涵養と、環境美化意識の徹底	(14) PTA・中の海会・その他諸団体との連携による学校教育に対する信頼の醸成	チ) PTA諸活動の内容を検討し、広報活動を通してPTA会員に理解を求め、会合や各種活動への参加率を上げる	総務	「奨学金制度の情報提供」に関する評価(保護者)	3.5	2.92	83.4	B	今年度は様々な奨学金の情報を保護者宛文書で配布した。しかし、色紙を使用しなかったため保護者まで届いていなかったことも考えられる。	B	平成26年度入学生から授業料の納付が始まる。社会の経済状況も好転しているとも言えない。いろいろな意味で生徒の就学支援を希望されるご家庭も多いと思います。しっかり情報提供していただきたい。	他の保護者宛文書と同様、ピンク用紙で配布しホームページにも掲載する。情報が必ず保護者へ届くよう、生徒への指導を継続する。
		(15) 生徒の健康な心身の育成	ツ) 朝の健康観察・欠席者集計による生徒把握と定期健康診断による治療勧告をする	保健相談	「健康の保持・増進のための健康診断や保健室利用」に関する評価(生徒)	3.5	3.32	94.8	B	健康診断の実施と検診後の治療勧告や学校行事での安全対策は、全校教職員の共通理解ができ適切に対応することができている。また、保健室での個別の保健指導や感染症予防対策などは、保護者との連携も欠かせない。	B	集団生活においては健康の保持、清掃美化には注意を怠ってはいけないことである。日々の取組が大切である。引き続き頑張ってもらいたい。	健康の保持・増進や学校行事での安全対策は、全校教職員の共通理解を得て進めていく。また、保健室での個別対応は、保護者や担任等の協力も得て円滑に実施していく。
VIII 美しく豊かに生きる	9 豊かな情操の涵養と、環境美化意識の徹底	(16) 安全で衛生的な学校環境づくりの促進	テ) 清掃監督の現場指導とゴミの分別・持ち帰りと環境美化活動を促進する	保健相談	「掃除・美化やゴミの分別・持ち帰りに関する評価(生徒)」	3.5	3.34	95.4	B	清掃は各監督者の現場指導や生徒と一緒に活動が円滑に行われている。なお、ゴミの分別・持ち帰りは未だ不十分であり生徒保健委員会によるゴミ分別作業に加えて生徒会との連携・教職員の協力が重要である。	B	校舎の老朽化は進むが、愛着を持って使用させるためにも清掃活動は大切である。安全や衛生面も含め、清掃指導をお願いしたい。	清掃・美化は、今後も生徒・教職員の協力をお願いしたい。ゴミの分別・持ち帰りは、生徒保健委員会に加えて生徒会・教職員と連携した幅広い広報活動を工夫して展開していく。
		(17) 図書館利用拡大のための広報活動の強化	ト) 企画・特集展示・文化講座を開催し、その事前広報も徹底する。また、全教職員の支援によるブックリストを作成する	図書情報	生徒一人平均貸出冊数(1月末)	4冊	3.21冊	80.2	B	補習が放課後に移った影響で、3年生の図書館利用が極端に減った。特に3年生の利用促進に向けた手だてが必要。(昨年度末実績3.8冊)	B	図書利用の充実、学習意欲のバロメーターとも思える。図書館利用マナー、学習に取り組むやすい環境づくりの工夫など、今後に期待する。	年度末に配布した教員お薦めのブックリストの活用をすすめたり、今年度初めて実施した出張貸出しを増やすなどして生徒の読書欲を喚起する。
IX 美しく豊かに生きる	10 安全な環境づくり	(18) 校舎と校地の安全・安心な環境づくり	ナ) 安全点検等に基に修繕計画を立て、学校の施設設備が原因となる事故を発生させない	事務	校地内での人身事故発生件数(生徒・保護者・教員)	0件	0件	100.0	A	2月14日現在、学校施設・設備が原因の人身事故なし。(災害報告、養護教諭聞き取り、公務災害報告)	A	安全な環境づくりに、今後も取り組んでいきたい。	今後も安全点検等に基づき、計画的に修繕を実施する。